

## 時間のメタファーにおける図と地の問題

篠原 和子  
(東京農工大学工学部)  
k-shino@cc.tuat.ac.jp

## 認知意味論における概念メタファー

- 2つの概念領域間の写像関係をメタファーと呼ぶ
- 一方の概念領域に含まれる語彙を用いてもう一方の概念領域に含まれる概念を表す (多くの場合一方方向性・非対称性がみられる)

TARGET-DOMAIN IS SOURCE-DOMAIN  
e.g. GOOD IS UP  
BAD IS DOWN

## 図と地の問題

- Gestalt 心理学 認知言語学  
ルビンの壺 etc.



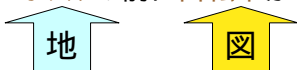
## 言語における図と地

- 言語における図と地の区別  
Talmy, Langacker etc.

図と地を文法(語彙)的に表示  
別々の文として表される

## 図と地の言語による表現(1)

ポストの前に自転車がある



自転車の後ろにポストがある



## 図と地の言語による表現(2)

目的地に近づきつつある(我々が)



目的地が近づきつつある(我々に)



## 時間のメタファーについては？

- TIME IS MOTION に含まれる例文にも、同様の例が見つかる

入試のシーズンに近づいている(我々が)



入試のシーズンが近づいている(我々に)



## TIME IS MOTION のなかの 2種のメタファー

### ■ Moving Ego / Moving Observer

入試のシーズンに近づいている(我々が)  
いよいよ21世紀に入った(我々が)

### ■ Moving Time

入試のシーズンが近づいている(我々に)  
若き日々は遠く過ぎ去った(私から)

### TIME IS MOTION

----> Moving Ego (Moving Observer)

----> Moving Time

これら2つのメタファーが図と地の反転を示すとされる

(Lakoff and Johnson 1999: 149)

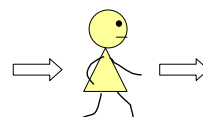
### ■ Moving Ego:

時間は静止しており, Egoがその線上を未来に向かって進んでいく

### ■ Moving Time:

Egoは静止しており, 時間が未来から過去へと過ぎ去っていく

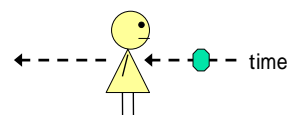
Moving Ego



time -----  
Past Present Future

Moving Time

Past Present Future



## 疑問点

- “TIME IS MOTION が Moving Ego と Moving Time の2つに下位分類され、この双方が 図と地の反転となっている” という見方は正しいか？

No

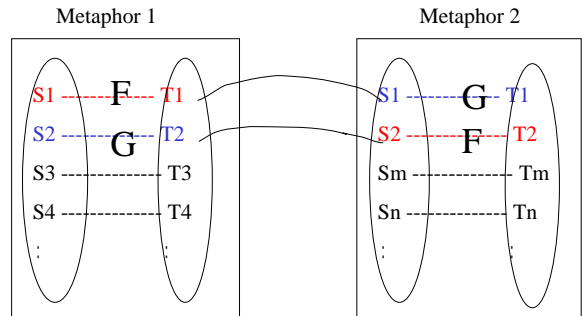
## 本発表の主張

- Moving Ego と Moving Time は 全体として図と地の反転を示すのではなく、その一部のみが反転の関係にある。
- Moore のTIME IS MOTION3分類が、Lakoff & Johnsonの2分類よりも妥当である。

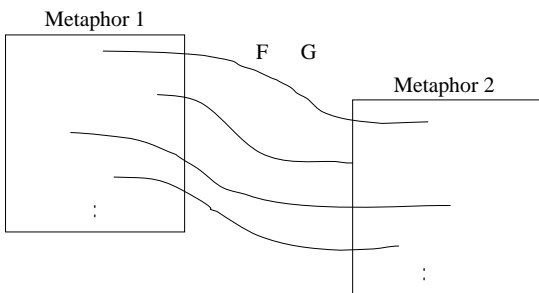
- 個々のセンテンスでなくメタファー同士が図と地の反転を示すとは、どういうことか？

両メタファーの概念要素同士の図地反転  
両メタファーの例文同士の図地反転

## 概念要素間の図地反転



## 例文間の図地反転



## Moving Time に含まれる例

- 入試のシーズンが近づいている
- 合格発表の三日後に、出題ミスが発覚した
- 解答を始める前に受験番号を記入しなさい
- 試合に先立って花束の贈呈を行います
- 公共事業の60%を上半期に前倒した  
(前後関係のMoving Time)

## 前後関係のMoving Time

- 「前」「後」の語彙が時間のメタファーで用いられる場合、これらは Moving Time にもとづく。

(Fillmore 1971/1997: 46,  
Ohara 1991: cited by Moore 2001: 158,  
瀬戸 1995, 91-92)

## Moving Timeの例文の2分類

- 入試のシーズンが近づいている  
入試のシーズンに近づいている  
図と地を反転させると Moving Ego になる
- 合格発表の三日後に、出題ミスが発覚した  
解答を始める前に受験番号を記入しなさい  
試合に先立って花束の贈呈を行います  
公共事業の60%を上半期に前倒した  
図と地を反転させても Moving Ego にならない

## 前後関係のMoving Timeにおける図と地の反転

合格発表の三日後に、出題ミスが発覚した



Time 1

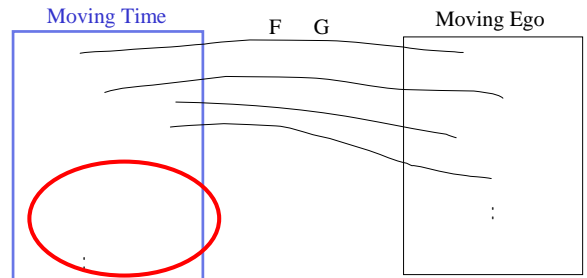


Time 2

出題ミスが発覚する三日前に合格発表があった



## Moving Time と Moving Ego の例文の対応関係

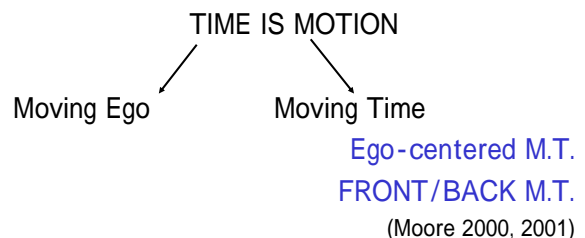


## したがって

- Moving Time と Moving Ego は、「メタファーとして図と地の反転関係にある」とは言えない。
- 例文の対応のふるまいを説明するには、Moving Time に2種の下位メタファーを考えるべき。

## Moore の下位分類

Moving Time には異なる2種のメタファーが含まれている

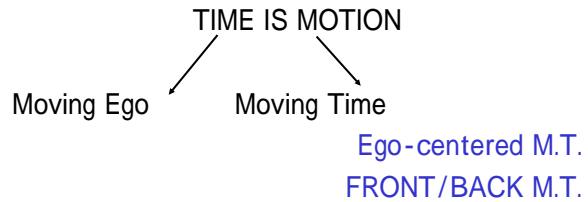


## TIME IS MOTION 内での 図と地の反転関係

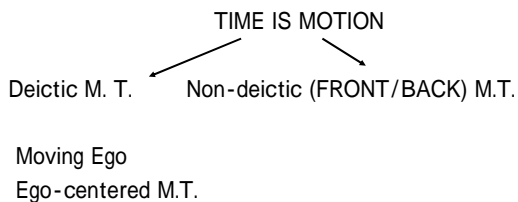
Moving Ego <---> Ego-centered M.T.

FRONT/BACK M.T. <---> FRONT/BACK M.T.

## TIME IS MOTION の下位分類と 図地反転



## TIME IS MOTION の再分類



## ここまでの結論

- TIME IS MOTIONを、Moving Egoと Moving Timeの2つにのみ下位分類するのは不十分である。
- Ego-centered (deictic) Moving Time, FRONT/BACK (non-deictic) Moving Time の2種の Moving Time を区別する必要がある。  
Moore の分類が妥当

## 認知科学分野との関連

- Boroditsky の諸研究 (2000他)
- Gentner, Imai, & Boroditsky (2002)
  - Moving Time, Moving Egoの2分類にもとづいた認知科学実験
  - Moving Timeの提示文が, FRONT/BACK Moving Timeのみ。

I will take two months vacation **after** graduation.

Dinner will be served **preceding** the session.

etc.

## 残された問題

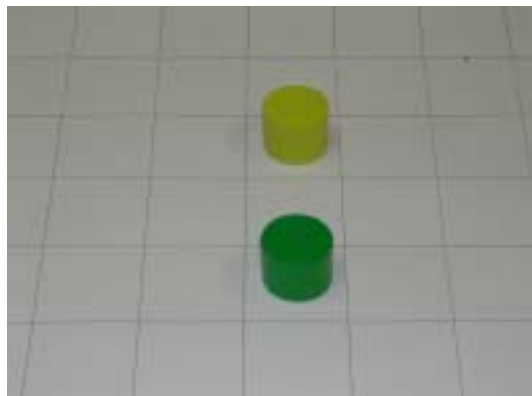
- 「前・後」を用いて earlier/laterの関係を表す時間のメタファーは、本当に **Moving Time** なのか？  
Static である可能性は本当に排除されるのか？

“..moving-time is not a necessary condition for earlier-in-front, later-behind. Earlier/before and later/after in no way presuppose movement, only sequence: *precede* and *follow* do presuppose movement as well as sequencing.”  
(Traugott 1975: 218)

“この「前後」の位置付けは、どちらかというとも静的なものであった。” (瀬戸 1995: 97)

## 内在的方向性と前後軸の付与

- 内在的方向性を持たない物体が前後軸を獲得するには、「運動(移動)」が必要である(cf. Lakoff & Johnson 1980) という前提は正しいか？



緑の積木は、黄色い積木の( )にある。

## ほんとうにMotionなのか？

EARLIER IS FRONT

LATER IS BACK

(cf. GOOD IS UP / BAD IS DOWN)

## Mooreの3分類の日本語資料による検討

- TIME IS MOTIONに含まれる日本語例文を「XからYまで」のフレーズを用いてテストし、ふるまいの異なる例文がどのように分布しているかをみる
- 3種類の異なるふるまいがあることを示す

## 「XからYまで」の基本用法

- X=source (出発点)  
Y=goal (到達点)

(田中・松本1997:38)

- 経路のスキーマを喚起させる

(Johnson 1987, Shinohara 2002a)

X -----> Y

## 空間領域での主な用法

- 物理的な移動
- 想像上の移動
- 距離
- 順序・配列
- fictive motion (心的走査を含む)  
その他

## TIME IS MOTIONでの用法

Mooreの3分類

- Moving Ego
- Ego centered Moving Time
- FRONT/BACK Moving Time

それぞれについて、生産性・移動方向・  
直示性の観点から例文のふるまいを  
比較する

## Moving Ego

- 「XからYまで」は生産的に用いられる
- Egoの移動方向は、X → Yの心的走査  
方向と一致する

## Moving Ego

- 結婚してから今日まで2年間共に歩いてきた。
- \*今日から結婚まで2年間共に歩いてきた。
- 今日から試験まであと一ヶ月走り抜こう。
- \*試験から今日まであと一ヶ月走り抜こう。

## Moving Egoにおける走査方向

X -----> Y

移動 / 心的走査の出発点

到達点

Earlier time (T1)

Later time (T2)

## Ego-centered Moving Time

- 使用に制約がある (生産性が低い)
- (希に使用される場合は) Moving Egoと  
逆の設定となる。  
(Later time が出発点, Earlier timeが到  
達点)

## Ego-centered Moving Time

- \*その事件は1ヶ月前から1年前まで去った。
- \*青春の日は最近から遠い過去まで過ぎ去って行った。
- ?\*学会が半年後から二ヶ月後まで迫った。
- ?\*切が三ヶ月後から三日後まで迫っている。

## Ego-centered Moving Time における走査方向

Y <----- X

到達点  
Earlier time (T2)

出発点  
Later time (T1)

## Ego-centered Moving Timeで生 産性が低いのは何故か

- Talmy's (1985) Motion Event Frame  
{Motion, Figure, Ground, Path} + Cause...  
Figure=Time, Ground=Ego + X, Y  
Figure が動くとき, Groundは動かない

しかし移動物であるTimeそのものがX, Yから分離不可能であるため, X, Yを基準にして移動することができない。

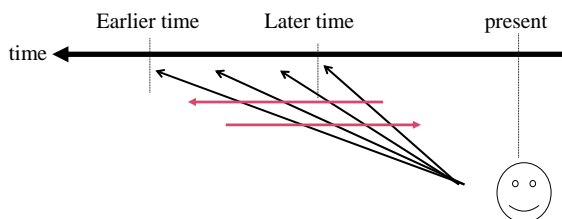
## FRONT/BACK Moving Time

- 非常に生産的に用いられる
- 走査方向は両方向とも可能

## FRONT/BACK Moving Time

- 試験の四日前から二日前まで徹夜した。
  - 試験開始の10分前からその2分後まで瞑想した。
- Earlier -----> Later
- 3年前から5年前までの入試問題をチェックした。
- Later -----> Earlier

## FRONT/BACK Moving Timeに おける走査方向





# 「XからYまで」を用いたテスト のまとめ

下位メタファ	生産性	走査方向	直示性
		Earlier Later	
Moving Ego	+	---->	+
Ego-cent. M. T.	-	(< ---)	+
F/B M. T.	++	----> <-----	-